

九月一日 国語プリント① 六年 組 ()

めあて

物語を読んで、わからない言葉を辞書で調べよう。

一 教科書八十四ページ「川とノリオ」を音読しましょう。

読めない漢字は、調べたり、家に人に聞いたりしよう。

二 分からない言葉を辞書で調べてプリントに書きましょう。

例 する…食物がくさって、すっぱいにおいがする。

例 一升：「升」は容積の単位。一升は約一・八リットル。

めあて

「川とノリオ」を読んで、印象に残った場面を書きましょう。

この学習のめあては、「すぐれた表現の効果を考えて、登場人物の心情を読もう」です。すぐれた表現とは、「たとえ（比喩）の表現」「色の表現」「物の名前やことがらを表す言葉で終わる表現（体言止め）」「人にたとえた表現（擬人法）」「音や様子を表す表現」「くり返しの表現」などが使われているところです。優れた表現を意識しながら、学習を進めましょう。

- 一 物語を音読しながら、印象に残った場面に線を引きましょう。
- 二 印象に残った場面（線を引いたところ）を書いて、どうして印象に残ったのかをプリントに書きましょう。

例 P84L⁴ 「ノリオはこの川の声を聞いた。」…川の音ではなく、声という「擬人法」

を使つていて、川をものとして考えるのではなく、ノリオと対等に考えていたから。

めあて

「川とノリオ」を読んで、いつ、どのようなできごとが起ったのかを表にまとめよう。

いつ	できご」と 川や川つぶらの様子	春にも夏にも、冬 の日も	「いつ」を表しているところに波線を引きながら、音読をしましよう。
早春	昔からずっと、いつときの絶え間もなく、流れている。 川風がすうすうと冷たかった。	ノリオは、かあちゃんのはんてんの中で川のにおいをかいだ。 ノリオは、川のにおいをかいだ。	いつ、どんなできごとがあつたのかを表にまとめましょう。
すすきの季節 (秋)	すすきのほが、川つぶらで旗をふった。 父ちゃんを見送る。		

いつ

できじ」と

川や川つぶの様子

めあて

「川とノリオ」の文から、「比喩」「色」「体言止め」「擬人法」 「音や様子」「くり返し」などの表現を探し、その効果について考えよう。

一 「比喩」「色」「体言止め」「擬人法」「音や様子」「繰り返し」などの表現に赤線を引きながら、音読をしましょう。

二 見つけた表現を表に整理し、その効果について考えましょう。

表現	効果
○比喩の表現 P86L10 ぬれたような母ちゃんの黒目に映つて、赤とんぼがすいすい飛んでいった。	・直接泣いていることを表すより、強い印象を与える。
○色の表現	

表現	効果
○名詞で終わる表現	
○人にたとえた表現	
○くり返しの表現	

三、表にまとめたような優れた表現を使うと、物語はどのようにになりますか。優れた表現がある場合と、ない場合とを比較しながら、自分の考えを書きましょう。

めあて

一茶まつりに向けて俳句について考えよう。

一 季語について調べよう。

冬	秋	夏	春

二 俳句の技法について調べてみよう。

反復法	体言止め	対句法 <small>ついく</small>	比喩 <small>ひゆ</small>	倒置法 <small>とうち</small>

三、俳句の技法を用いながら、俳句を作つてみよう。

作った俳句

やせ蛙 負けるな一茶 これにあり

(小林一茶)

俳句のポイント

呼びかけの技法を使って、蛙

を応援している。

省略法	呼びかけ	おういん 押韻

めあて

「知恵の言葉」を集めよう

生活の中から、「知恵の言葉」を探し出しあう。

日本語には、極意（コジ）や暗記法、教訓などを伝える、七音や五音でできた「知恵の言葉」が息づいています。ことわざやおまじないの言葉なども、その一つです。さまざまな生活の場面から探し、唱えてみましょう。

一 教科書百十・百十一ページを声に出して読んでみましょう。

一 教科書に出てこるもの以外の「知恵の言葉」を探し出して、表にまとめてみましょう。

ジャンル	言葉	意味や由来、歴史、豆知識など
ことわざ	笑う門には福来たる	和やかな笑い声がいつも聞かれるような家には、自然に幸福が訪れるものだということ。
おまじない	ちちんぷいぷい痛いの痛いの飛んで行け	痛みを和らげる言葉。英語などでも同じような意味を表すおまじないがある。 Pain, pain, go away!

ジャンル

言葉

意味や由来、歴史、豆知識など